

島料理でゆったり旅

遺跡見学や農作業体験

東京から「スローな生活」の16人

徳之島



バレイショ収穫作業を楽しむ「スローな生活と食を楽しむ徳之島」の旅一行 (25日、伊仙町伊仙で)

【徳之島】食環境を基にした「スローな生活と食を訪ねる」3日間 徳之島の旅一行が24日から来島。島の歴史文化と人情に浸りつ

つ、バレイショやコーヒーの収穫体験、新鮮食材を調理しての島料理試食会など、ゆったりとした島の生活を満喫している。「本物の贅沢」。取材や食

のワークショップで全国を駆け巡る金丸氏が鋭い観察眼で同島の魅力を綴ったノンフィクションエッセイ。同著を基に東京の富士国際旅行社がツアーを企画、関東地区の50代後半・70歳の男女16人が参加。島でのコーディネートと案内役は金丸氏の妻早苗さんが務めた。

初日は、伊仙町東公民館(面縄)で新鮮な海の幸の鍋料理と芭蕉葉でくるんだオニギリで昼食後、面縄貝塚遺跡と町歴史民俗資料館の見学、旬のタンカン狩りも満喫。25日は、面縄の義山良一さん有機栽培農園でゴーヤ(ニガウリ)、セロリ、トマトの一部を試食後、地元農家ばりの熱心さで「赤土新ばれいしよ・春一番」の収穫とスイートコーンの植え付け作業に挑戦。バレイショやニガウリ、カボチャなどを素材にした手作り島料理で昼食後は、面縄の吉玉誠一さんの

コーヒー園で豆の収穫やせん定作業、コーヒー試飲会も楽しんだ。

一行には、ツアーの募集PRにも協力した月刊誌「心と体と社会の健康を高める食生活『食べもの通信』(家庭栄養研究会)の柏木静江さんから編集委員5人の姿も。参加者たちについて「単なる観光旅行に飽き足らず、地域の人々との出会いや文化とのふれあい、そして食へのこだわりを持つた人たちが中心」。

一般参加の1人で、大手総合商社の米国支社に勤務し年間約400万円の食料輸入に携わったという山田雅行さん(59)「東京都は『東京とは環境が全く違う。初孫にもこういう所で育った食べ物を食べさせてあげたいと思った」。旅行社の添乗員男性も「食品偽装の問題などもあり、この種の旅行ニーズは一層高まるだろう」と話していた。